中学校第１学年　保健体育科　学習構想案

日　時　令和〇年○○月○○日（○）第○校時

場　所　○○中学校運動場

指導者　教諭　〇〇　〇〇

１　単元構想

|  |  |
| --- | --- |
| 単元名 | 球技　ゴール型　サッカー |
| 単元の目標 | (1)勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。ゴール型では，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。(2)攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(3)球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。 |
| 単元の評価規準 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 【知識】①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。【技能】①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 | ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。②仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。③仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。 | ①練習の補助をしたり 仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。②健康・安全に留意している。 |
| 単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿） |
| 仲間と協力して学習する中で，サッカー（球技）に関する理解を深め，ゴール前での攻防を展開して楽しさや喜びを味わい，日常生活でも球技をはじめスポーツに多様な関わり方をする生徒 |
| 単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題） | 本単元で働かせる見方・考え方 |
| ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう。 | サッカー（球技）の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目して，ボールを操作しながらゴール前での攻防をする，ポイントや仲間の出来栄えを見る，補助をしたり，仲間に助言したりして支える，サッカーの特性や名称，ポイント等を知る，といった多様な関わり方と関連付けること。 |
| 指導計画と評価計画（１０時間取扱い　本時４／１０） |
| 過程 | 時間 | 学習活動（「問い」を設定しても可） | 評価の観点等★は記録に残す評価の場面で「具体の評価規準」 |
| １ | １ | ○オリエンテーション　サッカーの特性学習の流れ，内容，準備や片付けの確認　グルーピング，ボール操作のスキルアップ | ★【知①】（学習カード）○サッカーには，集団対集団で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえるなどの特性があることを書き出している。 |
| ２ | ２ | ○ボールを持っているときの動きを高める1. スキルアップ練習・ボール操作
2. シュート・パス・トラップ
3. シュートゲーム
 | ★【態②】（観察）○ 自分や友達の体調や練習場所の安全を確認しながら練習している。【知②】（学習カード） |
| ３ | ５ | ○ボールを持っているときとボールを持たないときの攻防の仕方を高める1. スキルアップ練習
2. 課題の確認と解決の練習

ボールを持っているときの操作とボールを持たないときの空間に走りこむなどの動き（２対１・３対２）1. グリッドでの簡易ゲーム

（1時間１試合ずつの交流戦） | ★【態①】（観察）（学習カード）○練習をする中で仲間と動き方を確認したり助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。★【知②】（学習カード）○サッカーでの技術の名称とそれらを身に付けるためのポイントを具体的に書いている。★【技①】（観察）○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。★【思①】（観察）（学習カード）○提示された動きを参考に，仲間と練習した内容を比較しながら動きを確認している。★【技②】（観察）○得点しやすい空間にいる仲間を見つけ，パスを出すことができる。★【思③】（観察）（学習カード）○仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。★【技③】（観察）○ボールを持っている人とゴールが見える位置に移動し，ボールを受ける体制をとることができる。 |
| ４ | ２ | ○単元のまとめ（リーグ戦）ゴール前での攻防を展開して勝敗を競う楽しさや喜びを味わう1. ゲームの行い方の確認
2. チーム練習
3. リーグ戦
4. まとめ
 | ★【思②】（観察）（学習カード）○準備・片付けや審判の担当の時に，分担した役割に応じた活動の仕方を見つけている。【総括的な評価】※単元の進行に伴ってあらわれる生徒の学習状況の変化を１０時間目に最終確認する。 |

２　単元における系統及び児童の実態

|  |
| --- |
| 学習指導要領における該当箇所(内容，指導事項等) |
| 中学校学習指導要領　体育分野　第１学年及び第２学年　Ｅ球技　球技について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技術や仲間と関連した動きでゲームを展開すること。　ア　ゴール型では，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。(2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。(3) 球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ること。 |
| 運動の価値 |
| 球技（ゴール型）は，個人やチームの能力に応じた作戦を立て，集団対集団で勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。小学校では，「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり，チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることを狙いとした学習に取り組んでいる。本単元では，これらの学習を受けて，基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。 |
| 本単元における系統 |
| 中学校　第３学年Ｅ　球技　ゴール型　サッカー中学校　第２学年Ｅ　球技　ゴール型　バスケットボール小学校第５学年及び第６学年　Ｅ　ボール運動　ゴール型中学校　第１学年Ｅ　球技　ゴール型　サッカー |
| 児童の実態（単元の目標につながる学びの実態） |
| ■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 調　査　内　容 | 概ね６～８割 | 十分８割～ |
| 1. 近くにいるフリーの見方にパスを出すことができる。
 |  |  |
| 1. 相手にとられない位置でドリブルをすることができる。
 |  |  |
| 1. ボール保持者と自分の間に守備者が入らないように移動することができる。
 |  |  |
| 1. 得点しやすい場所に移動し，パスを受けてシュートなどをすることができる。
 |  |  |
| 1. ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。
 |  |  |

■本単元の学習に関する意識の状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 調　査　内　容 | 概ね６～８割 | 十分８割～ |
| 1. 保健体育の授業で，意欲的に学習に取り組もうとしているか。
 |  |  |
| 1. 課題を解決するために仲間と協力して考えながら解決しようとしているか。
 |  |  |
| 1. 考えたことを話し合いで仲間に伝えたり，アドバイスしたりしているか。
 |  |  |

■考察（資質・能力に関して）技能の状況に関しては，習熟に大きな差があり，ボールを持っているときの動きを高める時間を十分に確保する学習が必要である。体育の授業に意欲的に取り組む生徒は多く，自己やチームの課題を考えながら工夫して練習をする生徒も増えてきた。しかし，自分の考えを仲間に活発に伝えたりする場面が少なく，アドバイスすることについても消極的な生徒が多い。（学びに関して）主体的・対話的で深い学びの視点から，学びの状況を見ると，意欲的に粘り強く活動をしようとする生徒は多い。仲間と考えを交流させたり，アドバイスしたりすることに課題があることから，課題の解決の場面を工夫するとともに，考えを交流させるように単元計画の工夫が必要である。 |

３　指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

○　単元終了時の生徒の姿や単元を通した学習課題を共有して学習を進めることで生徒の主体的な学習につなげる。

○　毎時間スキルアップ練習の時間をとることにより，ボール所持の基礎的技能の習熟を図る。

○　２対１，３対２で場面を設定した課題の練習を行うことにより，空間に走りこむなどの動きを高められるようにする。その際，タブレットを活用して視覚的に動きを認識させることにより仲間との話し合いを活発化させる。

○　アドバイスの言葉や仲間にかける言葉を掲示し共有することで，アドバイス等をかけやすいようにする。

○　授業の途中や振り返りの場面で，良い動きをしていたグループの動画を紹介する時間を設けるようにする。

４　本時の学習

（１）目標

ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。

（２）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 時間 | 学習活動（◇予想される生徒の発言） | 指導上の留意事項（学習活動の目的・意図，内容，方法等） |
| 導　入 | 12分 | １　課題をつかむ1. 健康観察
2. 前時の学習の確認と今日の学習の流れを確認する。
3. スキルアップ練習

○ボールタッチ　　○ドリブル○パス練習　　　　○シュート**【めあて】ゴール方向に守備者がいない状況でシュートをするための動きを身に付けよう。****【学習課題】**２対１の状況で、ゴール方向に守備者がいない状況でシュートをするためにはどのような動きをしたらいいか、グループで考え、みんなができるようになろう。 | 〇健康状態を十分把握する。○単元全体の学習課題を確認し，ボール操作とゴール前での連携した動きについて学習することを確認する。〇コツを考えながら取り組ませる。○リーダーや技術が高い生徒がグループ全体に関わりながら練習するように促す。〇２対１の場面に焦点化し，ホワイトボード（全体用，各グループ用）を用意し考えさせる。〇ボール保持者は，今回はパスをするよう場面を制限する。〇する人（２対１で攻める人，守る人），見る人（観察・タブレットで撮影），支える（教えあう）といった関わり方を考えて活動するよう促す。 |
| 展　開 | 30分 | ２　課題の解決に向けて活動する。1. ２対１のグリッドで練習する。

　前半３人で３分→後半３人で３分（互いに撮影）　→動画チェック・話し合い３分前後半同様に３分ずつ◇守備者を追い越して裏にでたらいいね。◇離れた位置へ走りこんだら。1. グリッドでの簡易ゲーム

　３人対３人のゲーム　１班Ａ対２班Ａ　１班Ｂ対２班Ｂ・　　　　　　・・　　　　　　・* + - ・

◇練習の成果でシュートができた。◇シュートは失敗したけど，動くことはできた。**【期待される学びの姿】**仲間と一緒に練習したり、互いに動画で確認したりする中で、グループみんなで意見を出し合いながら高めあい、それぞれがゴール方向に守備者がいないところでパスを受けシュートをしようとする姿 | 〇ホワイトボードで考えられる動き方を確認し練習に取り組む。〇動画で実際の動きを視覚的に確認する。〇狙ってパスすることが難しい生徒は手を使って練習できるようにする。〇動画とホワイトボードを使ってよい動きと自分の動きを比べて高める。〇①で練習したことを生かしながらゲームに取り組む。**【具体の評価規準】**【技①】ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。（観察）<目標に達しない生徒への手立て>**【到達していない生徒への手立て】**○できている生徒と一緒に実際の動きを行い確認する。〇動き出す状況の判断を動画で確認する。 |
| 終末 | ８分 | ３　めあてに対する振り返りをする。①今日の学習をまとめ，発表する。**【まとめ】ゴール方向で守備者がいないところでシュートをするためには、守備者を追い越したりしてフリーでシュートできる位置に移動するとよい。**②学習の振り返り③整理運動・片づけ | ○ホワイトボードでうまくいった動きを振り返らせる。〇よい動きや効果的な学習ができていた班に発表させる。〇全体のホワイトボードで例を示し全体で確認する。〇生徒の体調を確認し，安全に留意させる。 |

５　板書計画

球技　ゴール型　サッカー

２対１の練習　動画を取りながら協力しよう！

試 そ う　前半３人→後半３人→動画チェック

生かそう　前半３人→後半３人　（各３分）

　　　　　　　　　　 【視点】

Ⓐ…

　　Ⓑ…

交流戦

ﾙｰﾙ

１

２

３

４

学習の流れ

１　めあて・学習内容の確認

２　準備運動・スキルアップ練習

３　２対１の練習（グループで）

４　前・後半３分　互いに撮影

５　３人対３人ゲーム

６　学習のまとめ

７　整理運動・片付け

めあて：ゴール方向に守備者がいない状況でシュートをするための動きを身に付けよう。

単元全体を通した学習課題：**ボール操作**と**ゴール前での連携した動き**を仲間と高めながらサッカーを楽しもう

アドバイス言葉

１

２

３

スキルアップメニュー

１　ボールタッチ

２　ドリブル

３　パス＆ゴー　鬼回し

４　シュート



今日の対戦

(1)１Ａ対２Ａ　３Ａ対４Ａ

　（ －　 ） （ －　 ）

(2)１Ｂ対２Ｂ　３Ｂ対４Ｂ

 （ －　 ） （ －　 ）

６　場の設定

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Ⓒ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Ⓓ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Ⓕ

　※　２対１の練習の場として複数のグリッドを準備する。

パス

ﾀﾌﾞﾚｯﾄ

７　ＩＣＴの活用計画

例：教師による課題の提示，ＩＣＴを活用して動きの確認，まとめ等の考えの共有等

例３

よい動きができたり，手本となるような学習の進め方ができたりしたグループをまとめで紹介し次時につなげる。

例２

グループでお互いに，タブレットで撮影し，動きを確認しながら技能の習得に役立てる。

例１

課題解決に向けて活動に入る段階で，課題を解決するための動きをイメージできるように動画を提示する。

８　見方・考え方を働かせて，終末や次時以降の学習に生かす計画

例１　グリッドでの簡易ゲームや終末に行うリーグ戦で，ボール操作やゴール前での攻防を展開して楽しむ。

例２　第２学年での球技・ゴール型の学習では，本単元で学んだゴール前での連携した動きをさらに高めるために，自己やチームの課題に応じた練習方法を選び，練習場面での良い取組などを仲間に伝えたりして学習に取り組む。